学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校　令和５年度の自己評価に対する学校関係者評価結果

令和６年５月２２日実施

自己評定（総合）	B（2.4）	学校関係者評定（総合）	B（2.6）

３段階評価　A：達成　　B：一定の成果あり　　C：不十分　　右の評定は A=3　B=2　C=1 で点数化

教育の方針	確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。

努力目標	自己評価	結　果　報　告	外部評価	学校関係者（外部委員）からの意見・提言
1.建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	① 毎日の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い、建学の精神を確認し、日々の教育の基とした。 ②学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を３カ月毎に自己評価し職員会議で共通理解を図り、改善につなげた。 ③毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	B	・努力目標は概ね達成できているので、目標を意識して行動されていることが推察されるが、客観的に評価する指標が詳細にされていると評価しやすい。 ・建学の精神の具現化に努力され、将来医療福祉分野で活躍する学生の職業倫理を身につけることができるように実践され、すばらしいと感じる。
2.国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	B	① 看護及びＰＴ養成学科においては、基礎基本の徹底と弱点克服の指導を徹底し、年間指導計画に従い実行した。 ②国家試験 100%を目指し、放課後などに国家試験対策を行った。合格率は、理学学科 93.3%、看護学科 85.7%で全国平均以上であった。	B	・理学学科の国試合格率は年々上がってきている。学校のポリシーを感じる。 ・両学科共に目標は受験者全員合格であるため、1年次からの各教科対策に力をいれる等改善していただきたい。
3．学生募集の推進	B	① 社会人向けのナイトオープンキャンパス2回追加し、6回実施したが、参加者の数値目標の 105%になり、目標を達成した。しかし、年度比77%で参加者数減少した。 ② 入試においては、受験者数は昨年より若干減少した。入学手続き者数が定員を下回った。	B	・ナイトオープンキャンパスを開催するなど学生募集に工夫されていることは評価できる。定員確保のために、診療報酬改定に伴い看護師・理学療法士の基本給がアップされたことも説明に追加する。また、在校生の意見を繁栄するなど工夫し、次年度は定員確保できる努力していただきたい。
4．　退学生の防止	A	①各学科具体的数値目標を掲げ、数値を意識して活動した。 ②心理診断結果や学力などを参考に、教員が科学的裏づけを基に学生個々への丁寧な指導を展開。また、運営委員会を実施して、退学・休学の恐れのある学生を確認し指導のあり方について協議を重ねた。退学者数は９名、前年より４名減となった。退・休学率 5.5%、前年比 63%で、退・休学数が減少した。	A	・学生に対して細かな対応をされ、前年度より退学者が減少していることは高く評価できる。個に応じて粘り強く対応をしていただき、さらに退学者の減少に尽力していただきたい。 ・学生達の小さいサインを見逃さず、周囲の学生達の声にも耳を傾けて早期に対応して退学未然に防いでほしい。
5.個を生かす進路指導の推進	B	③ 1年次から定期及び随時に個別面談を行い、進路希望を把握し、毎月の学科会で情報を共有し個別指導に役立てた。 ④ 関連施設や卒業生を学校に招請して、就職ガイダンスや進路相談会、技術指導講習等を実施した。 ② 就職率 100%であった。	A	・学生の個を活かした進路指導が行われ、就職率 100%を達成できたことは高く評価できる。また、県内に約 70%就職しており、若者の県内定住にも貢献している。
6.地域連携強化の推進	A	① 行動制限が解除され、ボランティア活動が大幅に増加した。西都市総合防災訓練の参加及び授業での障害者との交流会開催などの効果が波及し、社会福祉協議会との連携がさらに発達し、地域住民の本校への協力が得られるようになった。 ② 学校関係者評価委員会に、行政担当者や県立高校長も委員として参画してもらい、学校運営に意見をいただいた。 ③ 本校主催のバレーボール大会に県内の高校 11 校参加した。	A	・様々なボランティア活動をはじめ、行政や社会福祉協議会等との連携事業に積極的に取り組まれていることは高く評価できる。さらに、連携を深めていただきたい。 ・専門職団体との活動を取り入れ、交流する事も提案する。
7.経費節減と校納金完納の推進	A	① 毎月の職員会議で、水光熱・電話代の使用量を前年比数値も提示して意識化を促進し、使用量前年比減となった。 ②使用量の多い印刷機の紙使用量を毎週末に計測記録し、前年度同時期の量と比較しながら、随時職員へ情報提供した。 ② 校納金は前期、後期とも完納であった。	A	・経費節減について、教職員への意識改革に取り組まれ、その結果、対前年比減を達成できたことは高く評価できる。 ・校納金完納も高く評価できる。

※「外部評価」は７名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評定です。「学校関係者評定（総合）」は名の「外部評価」７項目の平均を四捨五入した結果の評定です。